



Special Interview うんばば中尾さん

◎ Profile うんばば・なかお
昭和 40 年熊本県生まれ。有限会社赤坂を立ち上げ、イベ
ントの企画・運営を手掛けながら、自らもテレビ番組制作
などで培ったノウハウを生かしキャスター、リポーター、
イベント司会、講演活動などを行う。

私 は平成17年に飲酒運転
で事故を起こしてしま
いました。前日は午後10時頃
までテレビ番組の打ち合わ
せを兼ねてお酒を飲みまし
た。タクシーで帰宅して寝た
後、午前3時に起きて「もう
大丈夫だろう」と思い、食材

を買いに市場へ車で向かいま
した。その途中、信号待ちで
停車していた車に追突してし
まったのです。
実況見分の
最中、私か
らお酒のに
おいがした

タレントとして活躍しているうんば中尾さんは、飲酒運
転事故を起こした体験を人に伝え、その危険性を知らせる
ために講演活動を行っています。飲酒運転が自分や周りの
人に与えた影響と、防止策について話を聞きました。

**その先にある悲しみに
気付いてほしい――**

事 故後、私はお世話に
なっていた企業や放送
局からの信用、キャリア、収
入など多くのものを失いまし
た。家族にもつらい思いをさ
せてしまいました。家や車に
いたずらをされ、精神的に不
安定になった時期もありま
す。だからこそ今は、一人で
も多くの人に飲酒運転の危険
性やその先にある悲しみに気
付けてもらおうと講演活動を
行っています。

ため飲酒チェックを受け、測
定の結果酒気帯び運転で検挙
されました。

お 酒がなくならない限り
飲酒運転を根絶するこ
とは難しいかもしれません。
しかし、そのせいで人の夢や
人生が奪われることは決して
あってはなりません。飲酒運
転は家族、職場、友人同士な
ど社会全体の問題として本気
で取り組んでいくことが大事
です。飲酒運転を減らすため
に一人一人がルールを守り、
飲酒運転をしない、させない、
許さない環境を熊本県からつ
くっていきましょう。

飲 酒運転を減らすには、
自分が酔っていること
を知りながら運転する人、お
酒が抜けたと思い込んで運転
する人にしっかりと自覚して
もらうことが重要です。その
ためには、当事者だけでなく
周りの人も一緒に取り組んで
いく必要があります。お酒を
飲むときには職場に車を置き
てみんなでタクシーで帰る、
お酒が残っていないか家族に
息をチェックしてもらうなど
いろいろな取り組みができる
と思います。



笑顔を守るための鍵は、自
覚と助け合いでした。その鍵
は私たち熊本県民一人一人が
握っています。
熊本県から飲酒運転をなく
し、大切な人の「笑顔」を守っ
ていきましょう。

笑顔を守るために
「飲酒運転はしてはいけな
い」。みんなが知っている
当たり前のことです。しかし、
アルコールはその当たり前の
ことも分からなくしてしまう
ことがあります。
想像してみてください。も
し自分が飲酒運転事故を起こ
してしまつたら……。もし大
切な人が飲酒運転事故に巻き
込まれたら……。

その手で守れる 笑顔があります

厳罰化されたものの、依然として後を絶たない飲酒運
転。なぜ、危険だと分かっている飲酒運転をしてしま
うのでしょうか。お酒を飲む機会が増えるこの時
期に、いま一度飲酒運転について考えてみましょう。



後を絶たない飲酒運転

平成18年、福岡市で幼児3
人が死亡する飲酒運転事故が
発生しました。この悲惨な事
故は社会問題となり、翌年
には法律が改正され飲酒運転
に対する罰則が強化されまし
た。しかし飲酒運転による事
故や検挙は後を絶ちません。

熊本県警によると、県内の
飲酒運転による交通事故は平
成19年に大幅に減少したもの
の、その後はほぼ横ばいと
なっています(図1)。飲酒
運転は依然としてなくなって
いません。

その主な要因には、自分が
事故を起こすはずがないとい
う「ひとごと感覚」、少しし
か飲んでいないからという
「自覚の欠如」、飲んで数時間
たったから大丈夫という「ア
ルコールが及ぼす影響に対す
る理解不足」の3つが挙げら
れます。飲酒運転をなくすた
めにはこれらの意識を変えて
いくが必要です。

最近では、翌朝の二日酔い
運転による検挙も増えていま

す。「一度寝たから大丈夫」
は、本当は大丈夫ではないの
です。

自覚と周囲のフォローが鍵

飲酒運転で検挙された人の
中には、事故の悲惨さや処分
の重さなどを分かっているが
らハンドルを握ってしまった
という人もいます。誰にでも
「つい……」ということが起
こり得るのです。その結果、
社会的信用、仕事、家族の絆
などたくさんものを失いま
す。失ったものを取り戻すた
めには多くの努力と長い時間
が必要です。いま一度、一人
一人が当たり前のことを強く
自覚することが求められま
す。

全くお酒を飲まない人でも
無関係ではありません。家庭
や職場、仲間同士で声を掛け
合つてください。お酒の席で
飲酒運転への注意を呼び掛け
たりハンドルキーパーを決め
たりと、できることは身近に
あります。あなたの一言が、
その飲酒運転を止める鍵にな
るかもしれません。

Interview

お 酒を飲むと情報処理能力、注意力、判
断力が低下します。この状態で運転す
ると、運転に必要な「反応」「操作」「発見」
などの要素が欠落してしまい、大きな事故に
つながることになります。死亡
事故率は飲酒なしの場合と比べ
て8.7倍です。お酒に強い人も
弱い人も関係なく、このようなリス
クがあることを知ってください。



図1 熊本県の飲酒運転による事故発生件数・検挙数

